

刑法  
附  
關  
係  
諸  
法  
令



035601-000-9

CZ-711-0115

刑法 附、關係諸法令

明治大学出版部

M 4 2

B B P - 0 1 5 3



乙X849

刑法附關係諸法令

明治大學出版部發行



本書ニ輯載セル諸法令中後日  
ノ法令ヲ以テ改正又ハ削除セ  
ラレタル個處ハ一々當該個條  
ニ就テ訂正ヲ加ヘタリ

62  
711  
0115

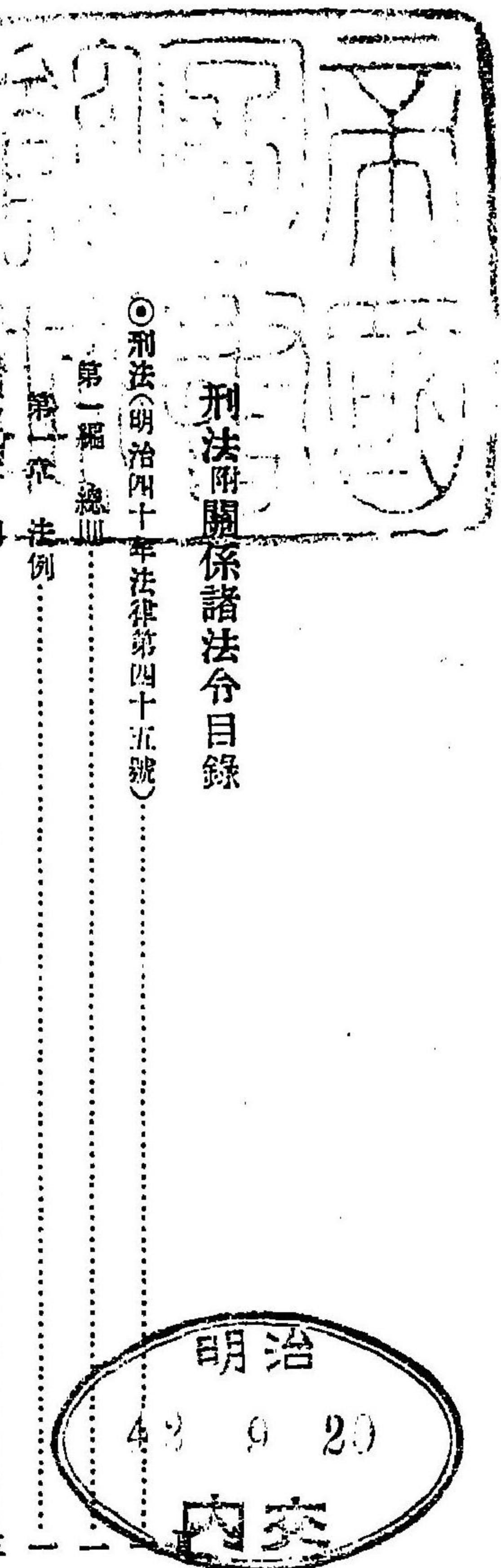
特47  
374

刑法附關係諸法令目錄

・刑法(明治四十年法律第四十五號)

第一編 總則	一
第一章 法例	一
第二章 刑	二
第三章 刑事訴訟	三
第四章 刑事執行	四
第五章 價出處	五
第六章 時效	六
第七章 犯罪、不成立及判刑の減免	七
第八章 表達罪	八
第九章 併合罪	九
第十章 索犯	一〇
第十一章 其他	一一
第十二章 藩督風紀	一二
第十三章 加減刑	一三

特47  
374



第二編 罪

第一章 皇室ニ對スル罪	一五
第二章 内亂ニ關スル罪	一六
第三章 外患ニ關スル罪	一七
第四章 國交ニ關スル罪	一八
第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪	一九
第六章 逃走ノ罪	二〇
第七章 犯人威壓及ヒ脅迫逕滅ノ罪	二一
第八章 謙擾ノ罪	二二
第九章 放火及ヒ失火ノ罪	二三
第十章 淹水及ヒ水利ニ關スル罪	二四
第十一章 往來ヲ妨害スル罪	二五
第十二章 住居ヲ侵ス罪	二六
第十三章 祕密ヲ侵ス罪	二七
第十四章 阿片煙ニ關スル罪	二八
第十五章 飲料水ニ關スル罪	二九
第十六章 通貨偽造ノ罪	三〇
第十七章 文書偽造ノ罪	一九
第十八章 有價證券偽造ノ罪	二一
第十九章 印章偽造ノ罪	二二
第二十章 偽證ノ罪	二三
第二十一章 謠告ノ罪	二三
第二十二章 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪	三四
第二十三章 賭博及ヒ富義ニ關スル罪	三五
第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪	三五
第二十五章 濫職ノ罪	三六
第二十六章 殺人ノ罪	三七
第二十七章 傷害ノ罪	三八
第二十八章 過失傷害ノ罪	三九
第二十九章 墓胎ノ罪	四〇
第三十章 遺棄ノ罪	四一
第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪	四二
第三十二章 脅迫ノ罪	
第三十三章 咨取及ヒ誘拐ノ罪	

第三十四章 名譽ニ對スル罪.....	四三
第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪.....	四三
第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪.....	四三
第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪.....	四五
第三十八章 横領ノ罪.....	四六
第三十九章 賸物ニ關スル罪.....	四六
第四十章 偽裏及ヒ隠匿ノ罪.....	四七
◎刑法施行法(明治四十一年法律第二十九號).....	四七
◎刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件(明治四十一年勅令第二百十七號).....	六二
◎刑法施行後施行ノ命令ニ掲ケタル刑法ノ刑名ニ關スル件(明治四十二年勅令第百二十號).....	六三
◎警察犯處罰令(明治四十一年内務省令第十六號).....	六四
◎印紙犯罪處罰法(明治四十二年法律第三十九號).....	六九
◎決闘罪ニ關スル件(明治二十二年法律第三十四號).....	七〇
◎爆發物取締罰則(明治十七年布告第三十二號).....	七一
◎外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造鑄造及模造ニ關スル件(明治三十八年法律第六十六號).....	七二

◎通貨及證券標造取締法(明治二十八年法律第二十八號).....	七四
◎紙幣類似證券取締法(明治三十九年法律第五十一號).....	七五
◎懸賞又ハ富賤類似其ノ他射幸方法提供及投票募集ノ行爲取締方(明治四十二年内務省令第二十號).....	七六
◎(臺灣)罰金及笞刑處分例(明治三十七年律令第一號).....	七七
◎關東州罰金及笞刑處分令(明治四十一年勅令第二百三十六號).....	七九

# 刑法

明治四十年四月  
法律第四十五號

(明治四十一年  
十月一日より施行)

## 第一章 法例

第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國內ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

第二條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

一 第七十三條乃至第七十六條ノ罪

二 第七十七條乃至第七十九條ノ罪

三 第八十一條乃至第八十九條ノ罪

四 第百四十八條ノ罪及ヒ其未遂罪

五 第百五十四條、第百五十五条、第百五十七条及ヒ第百五十八条ノ罪

六 第百六十二条及ヒ第百六十三条ノ罪

七 第百六十四条乃至第百六十六条ノ罪及ヒ第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條第二項ノ未遂罪

第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

- 一 第百八條、第一百九條第一項ノ罪、第一百八條、第一百九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可  
キ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪
- 二 第百十九條ノ罪
- 三 第百五十九條乃至第一百六十一条ノ罪
- 四 第百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪
- 五 第百七十六條乃至第一百七十九條、第一百八十一條及ヒ第一百八十四條ノ罪
- 六 第百九十九條、第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 七 第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪
- 八 第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪
- 九 第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
- 十 第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪
- 十一 第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪
- 十二 第二百三十條ノ罪
- 十三 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條及ヒ第  
二百四十三條ノ罪
- 十四 第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪
- 十五 第二百五十三條ノ罪

十六 第二百五十六條第二項ノ罪

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

第十四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

一 第百一條ノ罪及ヒ其未遂罪

二 第百五十六條ノ罪

三 第百九十三條、第一百九十五條第二項、第一百九十七條ノ罪及ヒ第一百九十五條第二項  
ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

第五條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行爲ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケ  
ス但犯人既ニ外國ニ於テ旨渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執  
行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員  
其他ノ職員ヲ譯フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行ノ所ヲ譯フ

第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ  
規定アルトキハ此限ニ在ラス

第二章 刑

刑法 總則 刑

第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス  
第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シト  
シ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超エルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス  
同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモ  
ノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス  
二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ  
其輕重ヲ定ム

第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス  
死刑ノ旨渡サ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置ス

第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一年以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘置シ定役ニ服ス

第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一年以上十五年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘置ス

第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕ス  
ル場合ニ於テハ一年以上ニ降スコトヲ得

第十五條 罰金ハ二十四以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十四以下ニ降スコトヲ得

第十六條 拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘置ス

第十七條 科料ハ十錢以上二十四未滿トス

第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス  
科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超エルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ旨渡サ爲ストキハ其旨渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場

合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ旨渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テハ裁判確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非  
サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ旨渡サ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數  
トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ

留置一日ノ割合ニ満タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス

一 犯罪行爲ヲ組成シタル物

二 犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物

三 犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ隔セサルトキニ限ル

第二十條 拘留又ハ料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ其サンハ沒收ヲ料スシ  
トサ得ヌ但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス

第二十一條 未決勾留ノ日數ハ其全部又ハ一部ナ木刑ニ算入スルコトヲ得

### 第三章 期間計算

第二十二條 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ナシタルトキハ將ニ從ヒテ之ヲ計算ス

第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス  
第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時效期間ノ初日亦同シ  
放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

### 第四章 刑ノ執行猶豫

第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因  
リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

- 一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
- 二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得  
タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ  
 一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
 二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
 三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處  
セラレタルコト發覺シタルトキ

第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキ  
ハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

### 第五章 假出獄

第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ超過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假出獄ヲ許スコトヲ  
得

第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得  
 一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
 二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
 三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可  
キトキ

四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假出場ヲ許スコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

第六章 時效

第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時效ニ因リ其執行ノ免除ヲ得

第三十二條 時效ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リ完滅ス

一 死刑ハ三十年

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未滿ハ五年

四 罰金ハ三年

五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

第三十三條 時效ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ不行セス

第三十四條 時效ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中断ス

罰金、科料及ヒ沒收ノ時效ハ執行行爲ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中断ス

第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス

第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ由テタル行爲ハ之ヲ罰セス

防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十七條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避ケル爲メ已ムコトヲ得サルニ由テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラサルチ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第三十九條 心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

刑法 總則 時效 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

第四十條 嘗嘗者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

第四十一條 十四歳ニ満タル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

第四十二條 犯罪未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトナシ

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ナ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

## 第八章 未遂罪

第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトナシ但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

第四十四條 未遂罪ナ別スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

## 第九章 併合罪

第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ナ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止ム其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トナ併合罪トス

第四十六條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ナ科セス但罰金、科料及ヒ沒在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ナ科セス但罰金、科料及ヒ沒

收ハ此限ニ在ラス

第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノナシテ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトナシ得ス

第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處断ス

第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトナシ得ス

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

第五十條 併合罪中既ニ裁判ナ經タル罪ト未タ裁判ナ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ナ經サル罪ニ付キ處斷ス

第五十一條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ナ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ナ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトナシ得ス

第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

- 第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス  
二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス
- 第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシ  
テ他ノ罪名ニ觸ルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス
- 第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス
- 第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷  
ス

## 第十章 罪犯

- 第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ  
更ニ罪ヲ犯シ有期徒役ニ處スヘキトキハ之ヲ再犯トス
- 懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ  
減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間  
内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期徒役ニ處ス可キトキ亦同シ
- 併合罪ニ付キ處断セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノ  
モノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス
- 第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

## 第十一章 共犯

- 第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス
- 第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス  
教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ
- 第六十二條 正犯ヲ帮助シタル者ハ從犯トス  
從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス
- 第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス
- 第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處スヘキ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アリニ非サレ  
ハ之ヲ別セス
- 第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成又可キ犯罪行爲ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖  
モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

## 第十二章 酬量減輕

第六十六條 犯罪ノ情狀憤諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

## 第十三章 加減例

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス

四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス

五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス

六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス

第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先

ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

第七十條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除

### 棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

第七十一條 酉量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

一 再犯加重

二 法律上ノ減輕

三 併合罪ノ加重

四 酉量減輕

## 第二編 邪

### 第一章 皇室ニ對スル罪

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加

ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三年以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ

第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲

役ニ處ス

第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

## 第二章 内亂ニ關スル罪

第七十七條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦士ヲ脅迫シ其他叛乱ヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處断ス

一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二 試謀ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他

諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ別ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

第七十九條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ帮助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

## 第三章 外患ニ關スル罪

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十三條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壊シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰闘ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十五條 敵國ノ爲メニ間谍ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ帮助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一

年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

#### 第四章 國交ニ關スル罪

第九十條 帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ズ

第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ズ

第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第九十四條 外國交戰ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

#### 第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

#### 第六章 逃走ノ罪

第九十七條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

刑法 罪 国史ニ關スル罪 公務ノ執行ヲ妨害スル罪 一九

第一百條 法令ニ因リ拘禁セラントル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以ニ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百一條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百二條 本章ノ未議罪ハ之ヲ罰セス

## 第七章 犯人藏匿及ヒ隠匿滅ノ罪

第一百三條 刑金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ヘ隠匿セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百四條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證據ヲ埋滅シ又ヘ偽造、變造シ若クハ偽造、變造ノ證據ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲ミニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

## 第八章 隱匿ノ罪

第一百六條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騒擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處断ス

一 首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ヘ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百七條 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及ブモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

## 第九章 放火及ヒ失火ノ罪

第一百八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鐵坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第一百九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鐵坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役三度ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

第一百十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百十一條 第百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延焼シタルトキハ三年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延焼シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第一百十二條 第百八條及ヒ第百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百十三條 第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第一百十四條 火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隠匿又ヘ損壊シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百十五條 第百九條第一項及ヒ第百十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ヘ貸貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ人物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

第一百十六條 火ヲ失シテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者亦同シ  
第一百七條 火薬、汽鑑其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル物又ヘ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壊シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ損壊シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者亦同シ

第一百八條 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮断シ因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危険ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮断シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處断ス  
タル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

#### 第十章 淹水及ヒ水利ニ關スル罪

第一百九條 淹水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車若クハ礪坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス  
第一百二十條 淹水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貯貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル

第一百二十一條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隠匿又ハ損壊シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百二十二條 過失ニ因リ溢水セシメテ第百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第一百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ三日圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百二十三條 堤防ヲ決潰シ、水闸ヲ破壊シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

## 第十一章 往來ヲ妨害スル罪

第一百二十四條 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壊又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處断ス

第一百二十五條 鐵道又ハ其標識ヲ損壊シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ヘ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壊シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第一百二十六條 人ノ現在スル汽車又ヘ電車ヲ顛覆又ヘ破壊シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ顛没又ヘ破壊シタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ヘ無期懲役ニ處ス

第一百二十七條 第百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ヘ電車ヲ顛覆若クハ破壊又ヘ艦船ヲ覆沒若クハ破壊ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第一百二十八條 第百二十四條第一項、第一百二十五條及ヒ第一百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百二十九條 過失ニ因リ汽車、電車又ヘ艦船ノ往來ノ危険ヲ生セシメ又ヘ汽車、電車ノ顛覆若クハ破壊又ヘ艦船ヲ顛没若クハ破壊ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ヘ千圓以下ノ罰金ニ處ス

## 第十二章 住居ヲ侵スル罪

第一百三十條 故ナク人ノ住居又ヘ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ヘ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ヘ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三十一條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ヘ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ

懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

第百三十二条 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

### 第十三章 祕密ヲ侵ス罪

第百三十三条 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下の罰金ニ處ス

第百三十四条 醫師、薬剤師、薬種商、産婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下の罰金ニ處ス

宗教若クハ神祇ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

第百三十五条 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

### 第十四章 阿片煙ニ觸スル罪

第百三十六条 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十七条 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十八条 稅關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

### 第十五章 飲料水ニ觸スル罪

第百四十二条 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十三条 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十四条 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十五条 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從

第一百四十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ヘ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第一百四十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壊又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

#### 第十六章 通貨偽造ノ罪

第一百四十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第一百四十九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第一百五十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル者ハ三年

以下ノ懲役ニ處ス

第一百五十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百五十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

第一百五十三條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原 料ヲ準備シタル者ハ三年以上五年以下ノ懲役ニ處ス

#### 第十七章 文書偽造ノ罪

第一百五十四条 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者亦同シ

第一百五十五条 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ  
前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員  
ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處  
ス

第一百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文  
書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル  
第一百五十七條 公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實  
ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六  
月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百五十八條 前四條ニ記載シタル文書若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一  
ノ刑ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、

利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三年以上五年以下ノ懲  
役ニ處ス  
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若ク  
ハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ  
一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第一百六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタ  
ルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第一百六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造  
若クハ變造シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

## 第十八章 有價證券偽造ノ罪

第一百六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽  
造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ  
第一百六十三條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行

使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

### 第十九章 印章偽造ノ罪

第一百六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期徒  
役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者  
亦同シ

第一百六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル者ハ三  
月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ  
印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第一百六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

第一百六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役  
ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦  
同シ

同シ

第一百六十八條 第一百六十四條第二項、第一百六十五條第二項、第一百六十六條第二項及ヒ前條

第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

### 第二十章 偽證ノ罪

第一百六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以上十年以下  
ノ懲役ニ處ス

第一百七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタ  
ルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第一百七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキ  
ハ前三條ノ例ニ同シ

### 第二十二章 謠告ノ罪

第一百七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタ  
ル者ハ第一百六十九條ノ例ニ同シ

第一百七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シ  
タルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

### 刑法 践 印章偽造ノ罪 偽證ノ罪 謠告ノ罪

## 第二十二章 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

第一百七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第一百七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

第一百七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ満タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第一百七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ満タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

第一百七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメヲ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

第一百七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第一百八十一條 第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第一百八十二条 営利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年

第一百八十三条 亂偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

## 第二十三章 賭博及ヒ富錢ニ關スル罪

以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

第一百八十四条 醜偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

## 第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第一百八十五条 偶然ノ偷竊ニ關シ財物ヲ以テ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

第一百八十六条 常習トシテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百八十七条 富錢ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富錢發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富錢ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第一百八十八条 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下

刑法 罰金、姦淫及ヒ重婚ノ罪 賭博及ヒ富錢ニ

罰スル罪 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

三五

ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十回以下ノ罰金ニ處ス  
説教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百回以下ノ罰金ニ處ス

第百八十九條 墓塚ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第一百九十条 死體、遺骨、遺髪又ハ棺内ニ安置シタル物ヲ損壊、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第一百九十一条 第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髪又ハ棺内ニ安置シタル物ヲ損壊、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百九十二条 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十回以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

## 第二十五章 罪職ノ罪

第一百九十三条 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ権利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第一百九十四条 裁判、検察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ輔助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第一百九十五条 裁判、検察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ輔助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮

ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

第一百九十六条 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處断ス

第一百九十七条 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコトヲハサルトキハ其價額ヲ追徴ス

第一百九十八条 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

## 第二十六章 殺人ノ罪

第一百九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第二百二條 人ヲ教唆若クハ帮助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三條 第百九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

## 第二十七章 傷害ノ罪

第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖毛一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

開以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス  
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

## 第二十八章 過失傷害ノ罪

第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ一千圓以下ノ罰金ニ處ス

二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因リ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

## 第二十九章 隕胎ノ罪

第二百十二條 懐胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十四條 醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以

刑法 罪 傷害ノ罪 過失傷害ノ罪 墮胎ノ罪

上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十五条 婦女ノ醫託ヲ受ケヌ又ハ其承諾ヲ得シテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處断ス

### 第三十章 遣棄ノ罪

第二百十七條 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十八條 老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處断ス

### 第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條 不法三人ヲ逮捕又ヒ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處断ス

### 第三十二章 脅迫ノ罪

第二百二十二条 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百日以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

第二百二十三条 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

### 第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十五條 営利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隠避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下の懲役ニ處ス

第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限リ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯入ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無

效又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

### 第三十四章 名譽ニ對スル罪

第二百三十條 公然事實ヲ暗示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ謹罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス

第二百三十一條 事實ヲ暗示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二百三十二条 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

### 第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三条 虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四条 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

### 第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

第二百三十五条 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十六条 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以下ノ懲役ニ處ス

## 上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ  
第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十八條 罷盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ  
暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス

第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス  
第二百四十條 強盜人ヲ傷ケタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキ  
ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ  
死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シ  
タルモノナルトキバ本草ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

第二百四十三條 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條  
ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百四十四條 直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ  
罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待  
テ其罪ヲ論ス

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス  
第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

## 第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己皆クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人  
ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタル  
トキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十八條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ  
財產上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第二百五十一條 本章ノ罪ニハ第二百四十二条、第二百四十四条及ヒ第二百四十五条ノ規  
定ヲ準用ス

### 第三十八章 橫領ノ罪

第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス  
自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十四條 遺失物・漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

### 第三十九章 賦物ニ關スル罪

第二百五十六條 賦物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
賊物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ其刑ヲ免除ス  
親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

### 第四十章 毀棄及ヒ隠匿ノ罪

第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
第二百五十九條 権利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス  
第二百六十條 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壊シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處断ス

第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壊又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シタルモノヲ損壊又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隠匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十一条及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

### ●刑法施行法 (明治四十一年三月)

法律第二十九號

第一條 本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱

スルハ刑法施行前ニ公布シタル法律及ヒ勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條 刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム

刑法ノ刑 舊刑法ノ刑

死刑 死刑

無期懲役 無期徒刑

無期禁錮

無期流刑

有期懲役

有期徒刑

有期禁錮

有期流刑、重禁獄、輕禁獄

罰金

罰金

拘留

拘留

科料 科料  
第三條 法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ加重又ハ減輕子爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

斬罪ヲ犯シタル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ又ハ二個以上ノ主刑中其一個ヲ科ス可キトキハ其中ニテ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲ス可シ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科ス可キトキ亦同シ

第四條 刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ待テ論ス可キ罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セサルモノト雖モ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セス

第五條 刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公權、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加ス可キトキト雖モ之ヲ附加セス

第六條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行ノ前又ハ後ニ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

一 確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

二 確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シタルトキト雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ヲ依ル

第七條 左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期徒刑ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於

テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一 著刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

二 著刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ准用ス

第八條 刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ著刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキト雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ著刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ因リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキハ其數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第十條 刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ニ著刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ確定裁

判アリタル罪ト其罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後確定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ著刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十二條 第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期徒役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 刑法施行後ハ著刑法又ハ著刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑ノ執行、假出獄及ヒ時效ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及ヒ明治十四年第八十一號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

著刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時效期間ノ起算及ヒ時效ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十四條 刑法施行後ハ著刑法ノ刑ニ處ス可キ者ト雖モ刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

第十五條 刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ准用ス

刑法施行前罰金又ハ科料ヲ納完セサル爲メ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ准用ス但留置ノ日數ハ其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 犯治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

第十七條 裁席判決ヲ以テ旨渡シタル刑ノ時效期間ハ其旨渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十八條 剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ノ旨渡ハ刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ失フ但既ニ徵收シタル附加ノ罰金ハ之ヲ還付セス

附加ノ罰金ヲ納完セサル爲メ換ヘラレタル禁錮ニ付キ亦前項ニ同シ

第十九條 他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス

他ノ法律ノ規定中剥奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

第二十條 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セス但他ノ法律中特二期

間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

第二十一條 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル

第二十二條 他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ掲ケ又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス爆發物取締罰則第十條ハ之ヲ廢止ス

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ場合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

第二十四條 明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條 左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ内刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

一 第二編第三章第五節

二 (印紙犯罪處罰法附則ヲ以テ削除)

三 第二編第四章第九節(度量衡法附則ヲ以テ本號中一部削除)

四 第二編第五章第三節

五 第三編第二章第四節

刑法第八條ノ規定及ヒ本號中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス



用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セス

第三十五條 六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ處セラルモノト看做ス

第三十六條 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セフレタルモノト看做ス

第三十七條 他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケサリシ場合ニ付テハ舊刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條 刑事訴訟法第八條ヲ左ノ如ク改ム

第八條 公訴ノ时效ハ左ノ期間ヲ経過スルニ因テ完成ス

一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

第二 無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年  
 三 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年  
 四 長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年  
 五 刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ一年  
 六 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第二十九條 刑事訴訟法第六十二條第三號ヲ左ノ如ク改ム  
 第三十條 刑事訴訟法第一百二十五条第二號ヲ左ノ如ク改ム  
 第二 痘師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗教若クハ神祇ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ  
 第四十一條 刑事訴訟法第一百二十六条第一項中「刑法第一百八十條三從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改メ同條第二項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム  
 同法第一百三十八條中「刑法第一百七十九條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

ム 同法第一百四十四條第一項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

- 第四十二条 刑事訴訟法第百六十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル  
被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シタルトキハ公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ
- 第四十三條 刑事訴訟法第百七十二條ヲ左ノ如ク改ム  
第一百七十二条 檢事ハ免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得
- 第四十四条 刑事訴訟法第二百三十六條中「輕罪、重罪ノ」ヲ削ル
- 第四十五条 刑事訴訟法第二百四十一條ヲ左ノ如ク改ム  
第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキハ其事件ヲ豫審列事ニ送付スル決定ヲ爲ス可シ検事ノ請求アルトキ亦同シ  
被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ  
受命判事ハ豫審列事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得
- 第四十六条 刑事訴訟法第二百六十四條中「更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ」ヲ削ル  
監獄ニ於テ執行ス可ギ二個以上ノ主刑ノ執行ハ其重キモノヲ先ニス但特別ノ事由アルトキハ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第四十七条 刑事訴訟法第三百十七條ニ左ノ一項ヲ加フ  
監獄ニ於テ執行ス可ギ二個以上ノ主刑ノ執行ハ其重キモノヲ先ニス但特別ノ事由アルトキハ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第四十八条 刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ
- 第三百十八條ノ二 死刑ノ執行ハ檢事及ヒ裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ  
死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス
- 第三百十八條ノ三 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ其痊癒ニ至ルマテ執行ヲ停止ス
- 死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス
- 第四十九條 刑事訴訟法第三百十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各城ノ一二該當スルトキハ其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得
- 一 心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ  
二 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル處アルトキ  
三 受胎後七月以上ナルトキ  
四 分娩後一月ヲ經過セサルトキ
- 第五十条 刑事訴訟法第三百二十條中「之ヲ爲ス可シ」ノ下ニ「刑ノ執行ヲ停止ス付キ亦同シ」ヲ加ヘ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十一條 刑事訴訟法第二十四條、第六十三條、第一百六十八條、第一百七十三條及ヒ第百七十四條但書ハ之ヲ削ル

第五十二條 刑事訴訟法中復權及ヒ特赦ニ關スル規定ハ之ヲ削ル

第五十三條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

第五十五條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其效力ヲ失フコトナシ但原判決ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス

上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受クタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 第五十三條及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス  
第五十八條 明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ仍ホ猶豫ノ期間  
ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス

第五十九條 明治三十九年法律第五十四號ヘ之ヲ廢止ス

第六十條 私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 賦物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲ス可シ

第六十二條 左ニ記載シタルモノヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用トス  
一 證人、公判ニ付キ呼出シタル證人、鑑定人及ヒ通事ニ給與ス可キ日當、旅費及ヒ

止宿料

二 第六十六條ニ記載シタル費用

第六十三條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ左ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

一 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金二十錢乃至金五十錢但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セス  
二 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金三十錢乃至金五圓

第六十四條 譲人、鑑定人及び通事ノ旅費ハ海陸路一里ニ付キ金五錢乃至金二十錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路、ヲ以テ旅費ヲ算定ス

前項ニ掲ケタル者ノ止宿料ハ一日ニ付キ金二十錢乃至金二十錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但八里以上ノ地ヨリ來リ滞在スルトキニ非サレハ之ヲ給與セズ

第六十五條 謙人、鑑定人及ヒ通事ノ日當、旅費及ヒ止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結前、公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレハ之ヲ給與セス

第六十六條 鑑定、通譯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

第六十七條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ノ連帶負擔トス

#### 附 則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

### ●刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件

明治四十一年九月  
勅令第二百十七號

刑法施行法中他ノ法律ニ關スル規定ハ刑法施行前ニ公布シタル命令ニ之ヲ準用ス

#### 附 則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十九年勅令第百五十五號ハ之ヲ廢止ス

### ●刑法施行後施行ノ命令ニ掲ケタル刑法ノ刑名ニ關スル件

明治四十二年四月  
勅令第二百二十一號

刑法施行後施行ノ命令ニ於テ人ノ資格其ノ他ノ事項ニ關シ掲ケタル刑法ノ刑名ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外左ノ例ニ從ヒ對照シタル舊刑法、舊陸軍刑法及舊海軍刑法ノ刑名ヲ包含ス

刑法ノ刑	舊刑法、舊陸軍刑法及舊海軍刑法ノ刑
死刑	死刑
懲役	無期徒刑、有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮
禁錮	無期流刑、有期流刑、重禁錮、輕禁錮、輕禁錮
罰金	罰金
拘留	拘留

刑法施行前三公佈シタル命令ニ關スル件 刑法施行後  
施行ノ命令ニ掲ケタル刑法ノ刑名ニ關スル件

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
勅章親奏令附則第三項ハ之ヲ廢止ス

●警察犯處罰令

明治四十一年九月  
内務省令第十六號

第一條

左ノ各號ノ一二該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス

一 故ナク人ノ居住若ハ看守セサル邸宅、建造物及船舶内ニ潜伏シタル者

二 密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒介若ハ容止ヲ爲シタル者

三 一定ノ住居又ハ生業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者

第二條

左ノ各號ノ一二該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス

一 合力、喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者

二 乞丐ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

三 遺ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物品、入場券等ヲ配付シタル者

四 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配

若ハ金品ヲ強請シタル者

五 他人ノ業務ニ對シ恐戦又ハ妨害ヲ爲シタル者

六 新聞紙、雑誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虚偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者

七 新聞紙、雑誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者

八 申込ナキ新聞紙、雑誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ

請求シタル者

九 祭事、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ恐戦又ハ妨害ヲ爲シタル者

十 自己占有ノ場所内ニ老幼、不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者

十一 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧嘩シ、横臥シ又ハ泥醉シテ徘徊シタル者

十二 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ淫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者

十三 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危険ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者

十四 劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ公衆ノ妨害ヲ爲シタル者

十五 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者

- 十六 人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ヘ虚報ヲ爲シタル者
- 十七 妾ニ吉凶融通ヲ説キ又ヘ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者
- 十八 病者ニ對シ禁狀、祈禱、符咒等ヲ爲シ又ヘ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者
- 十九 濫ニ催眠術ヲ施シタル者
- 二十 官職、位記、勳章、學位ヲ詐リ又ヘ法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ僭用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者
- 二十一 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ヘ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者
- 二十二 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ヘ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障碍ヲ爲シタル者
- 二十三 河川、溝渠又ヘ下水路ノ疏通ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 二十四 自己又ヘ他人ノ身體ニ刺文シタル者
- 二十五 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者
- 二十六 官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ヘ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚穢シ若ハ撤去シタル者
- 二十七 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入り若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ヘ官吏ヨリ援助ノ求メ受ケタルニ拘ラズ傍観シテ之ニ應セサル者
- 二十八 濫ニ他人ノ標燈又ヘ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者
- 二十九 他人ノ田野、園圃ニ於テ菜果ヲ採摘シ又ヘ花卉ヲ採折シタル者
- 三十 使用者ニシテ労役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ヘ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者
- 三十一 濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ヘ追隨シタル者
- 三十二 他人ノ身體、物件又ヘ之ニ害ヲ及ホスヘキ場所ニ對シ物件ヲ拋棄シ又ヘ放射シタル者
- 三十三 神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚穢シタル者
- 三十四 人ノ死屍又ヘ死胎ヲ隠匿シ又ヘ他物ニ紛ハシク擬態シタル者
- 三十五 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 三十六 不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者
- 三十七 濫ニ他人ノ繫キタル舟筏、牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者
- 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未滿ノ料料ニ處ス
- 一 許可ナクシテ人ノ死屍又ヘ死胎ヲ解剖シ又ヘ之レカ保存ヲ爲シタル者
- 二 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ裸露、裸體シ又ヘ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者
- 三 街路ニ於テ屎尿ヲ爲シ又ヘ爲サシメタル者

- 四 濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火薬其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ヒタル者  
 五 家屋其ノ他ノ建物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者  
 六 石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者  
 七 開業ノ醫師、産婆故ナク病者又ハ姪婦、產婦ノ招キニ應セサル者  
 八 故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者  
 九 炮煮、洗滌、剥皮等ヲ要セス其ノ體食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者

- 十 濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄露シ又ハ之レカ取除ノ義務ヲ忘リタル者  
 十一 監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者  
 十二 濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ嗾シ又ハ驚逸セシメタル者  
 十三 狂犬、猛獸等ノ繫鎖ヲ忘リ逸走セシメタル者  
 十四 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者  
 十五 濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚損シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、宣賣家札其ノ他榜樣ノ類ヲ汚損シ若ハ撤去シタル者  
 十六 橋梁又ハ堤防ヲ損壊スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者  
 十七 通路ナキ他人ノ田園ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬踏車ヲ牽入レタル者

第四條 本令ニ規定シタル違反行為ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但

シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎印紙犯罪處罰法 明治四十二年四月  
法律第三十九號

第一條 行使ノ目的ヲ以テ帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金額ヲ表影スヘキ印章ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス行使ノ目的ヲ以テ印紙ノ消印ヲ除去シタル者亦同シ

第二條 偽造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表影スヘキ印章若ハ消印ヲ除去シタル印紙ヲ使用シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ、輸入シ若ハ移入シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス印紙金額ヲ表影スヘキ印章ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三條 帝國政府ノ發行スル印紙其ノ他印紙金額ヲ表影スヘキ證票ヲ再ヒ使用シタル者ハ

五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四條 本法ハ何人ナ間ハス帝國外ニ於テ第一條又ハ第二條ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第五條 偽造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表影スヘキ印章又ハ消印ヲ除去シタル印紙ハ裁判

ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス  
官沒ニ關スル手續ヘ命令ヲ以テ之ヲ定ム

#### 附 則

刑法施行法第二十五條第一項第一號及第二十六條第十一號ハ之ヲ削ル

#### ●決闘罪ニ關スル件 明治二十二年十二月 法律第三十四號

第一條 決闘ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 決闘ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」情ヲ知テ決闘ノ場所ヲ定與シ又ハ併用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第五條 決闘ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ誹毀ノ罪ヲ以テ論ス

第六條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

#### ●爆發物取締罰則 明治十七年十二月 太政官布告第三十二號

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止ル者ハ重懲役ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣譲與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隠避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ナ減ス

第十條 (刑法施行法第二十二條第二項ヲ以テ削除)

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ壞僻陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下の監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處断ス

### ●外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造

#### 及模造ニ關スル件

明治三十八年三月  
法律第六十六號

第一條 流通セシムルノ目的ヲ以テ偽造又ヘ變造ニ係ル前條ニ記載シタル物ヲ帝國若ハ外官府發行ノ證券ヲ偽造シ又ヘ變造シタル者ハ重懲役又ヘ輕懲役ニ處ス

金銀貨以外ノ硬貨ヲ偽造シ又ヘ變造シタル者ハ懲役又ヘ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條 流通セシムルノ目的ヲ以テ偽造又ヘ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ヲ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第三條 情ヲ知テ偽造又ヘ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ヲ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ハ輕懲役又ヘ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

收得シタル後其ノ偽造又ヘ變造ナルコトヲ知テ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授付シタル者ハ其ノ名價三倍以下ノ罰金ニ處ス但シニ四以下ニ降スコトヲ得ス

第四條 第一條ノ偽造又ヘ變造ノ用ニ供シ若ハ供セシムルノ目的ヲ以テ器械若ハ原料ヲ製造シ、授受シ若ハ準備シ又ヘ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五條 販賣スルノ目的ヲ以テ第一條ニ記載シタル物ニ紛ハシキ外觀ヲ有スル物ヲ製造シ又ヘ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ二年以下ノ重禁錮又ヘ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ記載シタル物ヲ販賣シタル者ハ前項ノ例ニ同シ

第六條 前數條ニ規定シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ禁錮ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル件

第八條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ノ未  
タ行使セラレサル前又ハ第五條ニ記載シタル物ノ未タ授付セラレサル前ニ於テ官ニ自首  
シタルトキハ主刑ヲ免除スルコトヲ得

第九條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ外國ニ於テ確定裁判ヲ經タル者ト雖更ニ之ヲ處罰スル  
コトヲ妨ケス但シ犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタル  
トキハ刑ノ執行ヲ減免スルコトヲ得

第十條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ハ裁判ニ依リ  
沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

第十一條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ニハ明治九  
年布告第五十七號ヲ準用ス

#### 附 則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年勅令第百七十七號ハ之ヲ廢止ス

#### ●通貨及證券模造取締法 明治二十八年四月 法律第二十八號

第一條 貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債證券ニ粉ハシキ  
外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第二條 前條ニ違犯シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁細ニ處シ五圓以上五十四以下ノ罰  
金ヲ附加ス

第三條 第一條ニ掲ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官  
ニ於テ之ヲ破毀スヘシ

第四條 第一條ニ掲ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

#### ●紙幣類似證券取締法 明治三十九年五月 法律第五十一號

第一條 一樣ノ形式ヲ具ヘ簡々ノ取引ニ基カスシテ金額ヲ定メ多數ニ發行シタル證券ニシ  
テ紙幣類似ノ作用ヲ爲スモノト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ其ノ發行及流通ヲ禁止スル  
コトヲ得

前項ノ規定ハ一樣ノ價格ヲ表示シテ物品ノ給付ヲ約束スル證券ニ付之ヲ準用ス

第二條 前條ニ依リ證券ノ發行及流通ヲ禁止シタルトキハ主務大臣ハ直チニ其ノ旨ヲ公告  
ス

禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル證券ハ無效トス

#### 通貨及證券模造取締法 紙幣類似證券取締法

第三條 禁止ニ違反シテ證券ヲ發行シ又ハ其ノ證券ヲ授受シタル者ハ一年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ證券ヲ授受シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第四條 禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ナ以テ授受シタル者ノ罰亦前項ニ同シ  
ノ沒收スル場合ヲ除クノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政處分ナ以テ之ヲ官沒ス

### ●懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倅方法提供及投票募集

ノ行爲取締方 明治四十二年八月  
内務省令第二十號

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倅ノ方法ヲ用キムコトヲ提供シ又ハ投票ヲ募集スルノ行爲ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルモノハ廳府縣長官東京府ニ於テニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得  
前項禁止又ハ制限ヲ命セラレタル場合ニ於テ其ノ命令ニ違背シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以内ノ罰金情チ知リテ其ノ行爲ニ附隨シテ寄贈ヲ申出又ハ提供ヲ應諾シ若ハ投票ヲ行ヒ又ハ投票ノ結果ニ依リ彰表物ヲ受ケタル者ハ科料ニ處ス  
本令ハ明治四十二年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十三年内務省令第二十六號ハ之ヲ廢止ス

### ●(臺灣)罰金及笞刑處分例 明治三十七年一月 律令第一號

第一條 主刑三月以下ノ重禁錮ニ處スヘキ本島人及清國人ノ犯罪ニ付テハ其ノ情狀ニ依リ罰金又ハ笞刑ニ處スルコトヲ得  
第二條 主刑又ハ附加刑ノ罰金百圓以下ノ刑ニ處スヘキ本島人及清國人ノ犯罪ニ付テハ被告人左ノニ該ルトキハ其ノ情狀ニ依リ笞刑ニ處スルコトヲ得  
一 本島内ニ一定ノ住所ヲ有セサルトキ  
二 無資產ナリト認メタルトキ  
第三條 拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ本島人及清國人ノ犯罪ニ付テハ其ノ情狀ニ依リ笞刑ニ處スルコトヲ得  
第四條 主刑又ハ附加刑ノ罰金百圓以下又ハ科料ニ處セラル本島人及清國人ニシテ之ヲ完納セサル者ハ其ノ情狀ニ依リ笞刑ニ換フルコトヲ得但シ笞刑執行中未ダ執行セサル  
管數ニ相當スル罰金又ハ科料ヲ納メタルトキハ笞刑ヲ免ス  
第五條 本令ニ依リ罰金若ハ笞刑ニ處シ又ハ罰金若ハ科料ヲ笞刑ニ換フル場合ニ於テハ一日ヲ一圓ニ一日若ハ一圓ヲ笞ニ折算ス其ノ一圓ニ満タサルモノト雖猶笞ニ計算ス但シ笞ハ五ナ下ルコトヲ得ス

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倅方法提供ノ行爲取締方  
(臺灣)罰金及笞刑處分例 七七

第六條 管刑ハ督ニ鞭ス

第七條 管刑ハ滿十六歳以上滿六十歳以下ノ男子ニアラサレハ之ヲ科スルコトヲ得ス

第八條 管刑ハ管二十五以下ニ在リテハ之ヲ一同ニ執行シ其ノ以上ニ在リテハ管數二十五  
ヲ増ス毎ニ一回ナ加フ管數二十五ニ滿タサルモノ亦同シ

管刑ハ一日一向ナ超ユルコトヲ得ス

第九條 管刑ノ言渡確定シタル者ハ其ノ執行ヲ終ルマテ之ヲ監獄又ハ即決官署ニ拘置ス  
執行ノ猶豫ヲ得タル者ニ付テハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第十條 管刑ノ言渡確定シタルトキハ速ニ之ヲ執行スヘシ但シ管刑ニ處セラレタル者身體  
ノ健康之ヲ受クルニ堪ヘ難キモノト認ムルトキハ三月以内猶豫スルコトヲ得其ノ猶豫三  
月ヲ超エ猶執行ニ堪エ難キモノト認ムルトキハ管刑ノ執行ヲ免ス

第十一條 管刑ノ執行ハ監獄ニ於テ秘密ニ之ヲ行フ但シ即決官署ニ於テ言渡シタル管刑ハ  
其ノ官署ニ於テ執行ス

第十二條 本令ニ規定スルモノ、外必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

本令ノ施行期日ハ臺灣總督之ヲ定ム（編者曰、本令ハ明治三十七年五月一日ヨリ施行セラ  
レタリ）

#### 附 則

- 關東州罰金及管刑處分令 明治四十一九年九月  
勅令第二百三十六號
- 第一條 三月以下ノ懲役ニ處スヘキ支那人ノ犯罪ニ付テハ其ノ情狀ニ依リ別金又ハ管刑ニ  
處スルコトヲ得
- 第二條 百圓以下ノ罰金ニ處スヘキ支那人ノ犯罪ニ付テハ被告人左ノ各號ノ一二該ルトキ  
ヘ其ノ情狀ニ依リ管刑ニ處スルコトヲ得
- 一 關東州内ニ一定ノ住所ヲ有セサルトキ
  - 二 無資產ナリト認メタルトキ
  - 三 拘留又ハ科料ニ處スヘキ支那人ノ犯罪ニ付テハ其ノ情狀ニ依リ管刑ニ處スルコト  
ヲ得
- 第四條 百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處セラレタル支那人ニシテ之ヲ完納セサル者ハ其ノ情  
狀ニ依リ管刑ニ換フルコトヲ得但シ管刑執行中未タ執行セサル管數ニ相當スル罰金又ハ  
科料ヲ納メタルトキハ管刑ヲ免ス
- 第五條 本令ニ依リ罰金若ハ管刑ニ處シ又ハ罰金若ハ科料ヲ管刑ニ換フル場合ニ於テハ一  
日ヲ一回ニ、一日若ハ一回ナ加ニ折算ス其ノ一回ニ滿タサルモノト雖猶管一二計算ス  
但シ管ハ五ヲ下ルコトヲ得ス

第六條 答刑ハ脣ニ鞭ス

第七條 答刑ハ十六歳以上六十歳以下ノ男子ニ非サレハ之ヲ科スルコトヲ得ス

第八條 答刑ハ笞三十以下ニ在リテハ之ヲ一回ニ執行シ笞數三十迄ヲ増ス毎ニ一回ヲ加フ

答刑ハ一日一回ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 答刑ノ言渡確定シタル者ハ其ノ執行ヲ終ル迄之ヲ監獄、民政署又ハ民政支署ニ拘

置ス

執行ノ猶豫ヲ得タル者ニ付テハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第十條 答刑ノ言渡確定シタルトキハ速ニ之ヲ執行スヘシ但シ笞刑ニ處セラレタル者身體ノ健康之ヲ受クルニ堪ヘ難キモノト認ムルトキハ三月以内猶豫スルコトヲ得其ノ猶豫三

月ヲ超エ猶執行ニ堪ヘ難キモノト認ムルトキハ笞刑ヲ免ス

第十一條 答刑ハ監獄、民政署又ハ民政支署ニ於テ秘密ニ之ヲ執行ス

第十二條 本令ニ規定スルモノノ外必要ナル規定ハ關東都督之ヲ定ム

#### 附 則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

259

602

第六條 管刑ハ管ニ鞭ス

第七條 管刑ハ十六歳以上六十歳以下ノ男子ニ非サレハ之ヲ科スルコトナ得ス

第八條 管刑ハ管三十以下ニ在リテハ之ヲ一回ニ執行シ管數三十迄ナ増ス每ニ一回ナ加ス  
管刑ハ一日一回ナ超ユルコトナ得ス

第九條 管刑ノ旨渡確定シタル者ハ其ノ執行ヲ終ル迄之ヲ監獄、民政署又ハ民政支署に拘  
置ス

執行ノ猶豫ナ得タル者ニ付テハ前項ノ規定ニ依ラサルコトナ得

第十條 管刑ノ旨渡確定シタルトキハ速ニ之ヲ執行スヘシ但シ管刑ニ處セラレタル者身體  
ノ健康之ヲ受タルニ堪ハ難キモノト認ムトキハ五月以内猶豫ナシトナ得其ノ猶豫三  
月ナ超エ猶執行ニ堪ヘ難キモノト認ムリトキハ管刑ヲ免ス

第十一條 管刑ハ監獄、民政署又ハ民政支署ニ於テ秘密ニ之ヲ執行ス

第十二條 本令ニ規定スルモノノ外必要ナル規定ハ關東都督之上定ム

附 則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年九月十五日印刷  
明治四十二年九月十五日發行

正價十二錢

編輯者兼  
發行者

竹村正之助

發行所

明治大學出版部

東京市本所區三笠町二土番地

印刷者白士幸力

東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷所三光堂活版所

東京市神田區美土代町二丁目一番地

259  
602

セキスイ

## 刑事訴訟法附關係諸法令

○正價十七錢  
○郵送費二錢

右ハ本書ト同一ノ體裁、同一ノ用紙ニ印刷シタルモノニシテ左ノ諸法令ヲ輯メタリ

○刑事訴訟法(發布後數次改正セラレタル個條ハ各條文ノ下ニ於テ一々之ヲ訂正セリ)

○特赦及減刑ニ關スル勅令

○違等罪即決例

○普通治罪法、陸海軍治罪法交渉處分法

○間接國稅犯則者處分法

○逃亡犯罪人引渡條例

○外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法

○假出獄取締細則

○(臺灣)罰金及笞刑處分例施行細則

○關東州罰金及笞刑處分令施行細則

明治大學出版部

